Seishin Campus 219

おもな記事

・学生の社会貢献活動
・令和元年度懇談会開催報告
　令和元年度協力会総会開催報告
・グローバル教育環境整備募金
・財務状況報告
・グローバル共生研究所だより
　令和元年度科学研究費採択について
・Topics―聖心祭予告　他
・聖マグダレナ・ソフィア聖堂
　献堂60周年

聖心女子大学
University of the Sacred Heart, Tokyo

2019年（令和元年）7月26日発行

学生の社会貢献活動×地球

聖心女子大学は「聖心女子大学の社会連携・社会貢献に関する方針」に基づき、日々の教育研究活動の成果を広く社会に提供、発信することにより、社会の発展に寄与するよう努めています。学生は、授業やイベント運営への主体的な参加を通じ、地域との、そして世界との「共生」を学んでいます。

5月31日（金）と7月1日（月）に、Patagoniaとのコラボによる Worn Wear Project が開催されました。学生団体 Earth in Mind も中心となり企画したのが、学生ブース「洋服譲渡会−Hear Voices−」でした。きっかけは、4月1日(月)からグローバル共生研究所 Be＊hive の入口を飾る、メンバーたちによるアート作品です。素材となる「もう着ない服」を学内から募集したところ、なんとダンボール12箱分の服が集まりました。タグが付いたままの新品も多く、どの服もまだ十分に着られる状態でした。実は服の生産から消費、そして処分までに排出される膨大な量の二酸化炭素は、気候変動にも大きな影響を及ぼしているのです。少数のメンバーで作り上げたアート作品や洋服譲渡会の反響は大きく、毎日新聞、読売新聞への掲載、ラジオ日本の番組などのマスメディアからも取り上げられ、この問題の注目度の高さが伺えました。

Earth in Mind 代表　渡邉 有希（国際交流学科３年）

Earth in Mind

Earth in Mind には、「心に地球を」という思いが込められています。持続可能な社会を目指すためにはどうすればよいのかを考え、SDGs をもとにさまざまな分野から学びを深める活動をしています。講演会や企業の訪問、夏季合宿などを通して学びを深めます。近年では、聖心女子大学グローバル共生研究所とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいます。

学生の社会貢献活動×難民

SHRET　Meal for Refugees （M4R）

難民支援学生団体 SHRET（シュレット）は、昨年に引き続き2019年度も、６月17日（月）～22日（土）の６日間にわたって、Meal for Refugees を実施しました。Meal for Refugees は、日本に暮らす難民に教わったレシピをもとに、大学食堂に新しい・珍しい・おいしいメニューを増やすことを通じて難民を「知る」「支える」活動です。提供したメニュー１食につき20円を、日本に暮らす難民を支援する認定 NPO 法人 難民支援協会へ寄付します。

聖心女子大学では2015年の初導入開始から５年・５回目の開催となりました。

学生の社会貢献活動×地域

M.S.S.S.　打ち水大作戦 in 広尾商店街

ただいま準備中！

昨年の打ち水大作戦

M.S.S.S. は普段４つのセクションに分かれて活動を行っております。そして今年度も第16回打ち水大作戦を行います。今年度のテーマは「湊」です。防災訓練で使用した水を使用し打ち水を行います。子どもから外国人の方など幅広い世代に楽しんでいただけるイベントです。「かき氷」「ラムネ」などの食品販売や「わなげ」「ヨーヨー釣り」「風鈴作り」「紙芝居」「怪談」など、夏を楽しめる様々なイベントを企画しております。毎年大盛況ですが、今年度は今まで以上に皆さまにお楽しみいただけるようなイベントにしたいと思います。どうぞお越しください！
（打ち水は14時30分・15時30から行う予定です）

2019 年
8 月 4 日
SUN.

みんなで水まこう

令和元年度 聖心女子大学懇談会 開催報告

保護者のための就職ガイダンス

個別相談コーナー

Meal for Refugees

6月22日（土）、本年度の聖心女子大学懇談会が開催されました。1年次生の保護者193組246名、2年次生の保護者100組134名、3年次生の保護者87組111名、4年次生の保護者25組34名。合計405組525名でした。ときおり雨がぱらつく天候にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご参加いただき、本学に深いご理解とご関心を寄せていただいたことに、深謝申しあげます。

午前中の就職ガイダンスで幕を開け、午後は協力会総会にひきつづき全体会が開かれました。新しい聖心女子大学を紹介する髙祖新学長の挨拶につづき、国際交流学科のコルベイユ准教授と学生がモントリオール・スタディツアーを通した多文化共生の学びを説明しました。さらに、哲学科の加藤和哉教授が献堂60周年を迎える聖マグダレナ・ソフィア聖堂の歴史を紹介しました。その後の分科会では、各学科専攻の案内や1年次生の学科決定方法の説明を行い、教務課と学生生活課を中心に留学、キャリア支援などに関する個別相談ブースを設置し、皆様のお声を伺いました。

また、重要文化財の旧久邇宮邸の御常御殿（パレス）、旧久邇宮邸の本館車寄せ（クニハウス）の本学の歴史展示、4号館の『ファッションと気候変動』の展示をご覧いただき、学生食堂で難民支援学生団体SHRET主催のプロジェクトMeal for Refugeesに協力していただきました。

特に、終日、賑わった新学寮の学食オリーブと並んで、特別企画の加藤先生とシスター佐々木による聖堂のガイドツアーが好評を博し、100名以上の見学者がありました。なお、各部署の案内に当たった学生達の立ち居振る舞い、言葉遣い、ホスピタリティについて、高い評価をいただいたことを申し添えます。来年度も皆様のお越しを心よりお待ちしております。

安達 まみ 副学長（学生担当）

令和元年度 聖心女子大学協力会総会 開催報告

聖心女子大学協力会は、在学生の父母、卒業生及び卒業生の父母が会員となり、長年に亘り聖心女子大学の教育環境を整備するために支援を行っています。このたび、2019年度の総会が6月22日（土）午後1時からマリアンホールにおいて開催されました。

総会には濱口会長、木村副会長、宇野監事、羽渕監事が列席し、大学側から協力会名誉会長である髙祖学長、植田学務・大学院担当副学長、安達学生担当副学長、伊豆藏図書館長、西村事務局長、原田管理部次長が出席しました。

議案の審議に入る前に髙祖学長から、2019年4月に新たに学長に就任した挨拶と、協力会役員や会員による大学事業への支援やグローバル教育環境整備募金等への協力に対する謝意表明がありました。

次に、濱口会長からの挨拶に続いて、議案の審議に入りました。第1号議案「2018年度事業報告及び決算について」では、大学事業への各種補助が合計4,000万円行われたこと、および決算については、正会員、賛助会員による前年比での納入率の低下により会費納入額が下振れ、会費収入が約95万円の減収だったとの説明がありました。

第2号議案「2019年度事業計画及び予算案について」は、会費収入について、前年度同様入学者数の増加と、会費納入方法の多様化によって前年度並みの会費納入額を見込み、大学への補助額は昨年度実績と同額の4,000万円としたいとの説明があった後、第1号議案とともに一同に諮られ、承認されました。

第3号議案「協力会役員・監事選任について」は、正会員選出候補者4名（新任）、賛助会員選出候補者5名（重任）及び監事候補者2名（重任）について、関係する会則と共に説明があった後、一同に諮られ、承認されました。この後、出席者からの質疑応答、正会員選出役員4名の紹介を経て閉会しました。

（管理部総務課）

2018年度決算（自：2018年4月1日　至：2019年3月31日）

収入				支出			
項目	予算 A	決算 B	差額 B-A	項目	予算 A	決算 B	差額 B-A
前期繰越金	3,018,602	3,018,602	0				
正会員会費	39,000,000	35,380,000	−3,620,000	大学事業への補助	42,000,000	40,000,000	−2,000,000
賛助会員会費	7,350,000	6,720,000	−630,000	学生配布品	690,000	689,970	−30
預金利息	250	228	−22	事務費	2,060,000	2,158,789	98,789
その他	0	0	0	次期繰越金	4,618,852	2,270,071	−2,348,781
総計	49,368,852	45,118,830	−4,250,022	総計	49,368,852	45,118,830	−4,250,022
				前受金	500,000	1,020,000	520,000
				期末預金残高	5,118,852	3,290,071	−1,828,781

2018年度大学事業への補助

前年度は繰越金の増加を受けて補助額を増額しましたが、当年度は概ね例年通りの40,000,000円を大学事業への補助としました。内訳については、次のとおりです。

項目	金額（円）
図書購入費（定本漱石全集（全28巻），日本書誌学大系他）	12,000,000
課外活動費（クラブ活動費等）	7,500,000
学生食堂経費（食材費、光熱水費等）	7,000,000
奨学金（外国人留学生を含む在学生への給付等）	12,000,000
保健センター・学生相談室経費（健康診断等）	1,500,000
合計	40,000,000

2019年度予算案（自：2019年4月1日　至：2020年3月31日）

収入				支出			
項目	2018年度 決算 A	2019年度 予算 B	差額 B-A	項目	2018年度 決算 A	2019年度 予算 B	差額 B-A
前期繰越金	3,018,602	2,270,071	−748,531				
正会員会費	35,380,000	34,860,000	−520,000	大学事業への補助	40,000,000	40,000,000	0
賛助会員会費	6,720,000	7,050,000	330,000	学生配布品	689,970	400,000	−289,970
預金利息	228	250	22	事務費	2,158,789	2,210,000	51,211
その他	0	0	0	次期繰越金	2,270,071	1,570,321	−699,750
総計	45,118,830	44,180,321	−938,509	総計	45,118,830	44,180,321	−938,509
				前受金	1,020,000	500,000	−520,000
				期末預金残高	3,290,071	2,070,321	−1,219,750

グローバル教育環境整備募金

「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性を育成する」という使命達成に向け、４号館（新棟）の整備、新学寮の建設など大規模なキャンパス整備を実施しています。このため2017年１月より３ヵ年の計画で皆様方からのあたたかいご支援をお願いしておりますが、このたび更に広く関係者各位のご支援を仰ぐため、募集期間を2021年12月まで２年間延長することといたしました。

目標金額	10億円

ご寄付の状況（2019年5月末日現在）

件数：７３５件　　総額：２４０,０４６,８２８円

グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。なお、ご芳名は掲載に同意いただいた方のみとなります。

■5,000,000円
秀和ビルメンテナンス株式会社

■1,500,000円
宮代会

■1,000,000円
小堀 玲子（故人）

■300,000円
株式会社奥本いろは堂

■284,903円
宮代会

■100,000円
掛川 眞理

■52,356円
31回生還暦同窓会

■50,000円
宮代会群馬支部

■30,000円
笹野 惠子
外村 洋子
富永 洋子
テドネ髙野 麻由美

■10,000円
松本 良子

■ご芳名のみ
新井 協子
石塚 由美子
小川 真弓
沖崎 美彩子
北村 聡子
黒川 久美
國分 晃
小柳 智一
島松 素子
道正 伸久
原 由利子
原岡 文子
山下 万友美
吉田 慶子

■匿名　10件

寄付者ご芳名（2019年１月～2019年５月末）

【掲載要領】

1. ご芳名は、上記期間に寄付申込書のご提出とご入金の確認が取れた方々について、お送りした領収証の宛名に記載の名義で掲載しております。なお、敬称は省略させていただきました。
2. 金額掲載に同意された方については、金額別に五十音順で掲載しています。
   金額掲載に同意されていない方については、「ご芳名のみ」として五十音順に掲載しています。なお、芳名録への掲載に同意されなかった方につきましては、匿名として件数のみ掲載しております。
3. 団体・法人については、代表者等のお名前は省略させていただきました。

ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

【募金に関するお問い合わせ先】　聖心女子大学管理部財務課／電話：03-3407-5811（代表）
E-mail: e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

●寄付金ホームページＵＲＬ：
https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html
（「聖心女子大学　寄付金」で検索してください）
※ Web 画面からの申込み・クレジット決済も可能です。

●税法上の優遇措置について

聖心女子大学への寄付金は、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。
・所得税　・住民税　・相続税　・法人税（全額損金への算入）
ご寄付の「領収書」に添えて確定申告に必要な書類（証明書の写し等）をお渡しいたします。
詳しくは、上記 WEB サイトの「税法上の優遇措置について」をご覧ください。

財務状況報告

〈2018（平成30）年度決算状況〉

平成30年度決算は、収入面では昨年度入学者からの学納金改定の学年進行の効果、新築学寮の寮費等改定や入寮者増等により増収となりましたが、支出面でキャンパス整備事業に伴う施設設備関係支出及び関連の経費支出等が当年度も大きかったため、支出超過の状況が継続する結果となりました。

当年度は学寮建設資金の一部について外部調達を行ったこともあり、引き続き経費の節減に注力するとともに、募金事業の募集期間延長等の増収策を進めています。学納金の改定等は学年の進行に伴って増収効果が実現してくることから、現時点では支出が先行しており、学寮新築等の償却資産の増加に伴い基本金組入額も増加しました。

支出超過の状態を早期に解消すべく、引き続き対策に注力していく所存です。

なお、新学寮は供用開始しており、2019年度前期中に外構部を含めた工事が完了する予定です。また現在進行中の南門アクセス改善工事も前期中の竣工を予定しています。

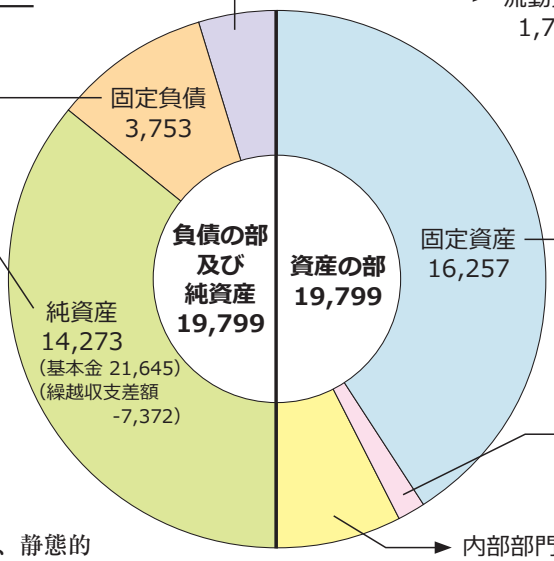
〈2019（令和元）年度予算について〉

2019年度で主要な施設設備整備工事が一段落する予定ですが、引き続き旺盛な資金需要が見込まれます。新学寮の本格稼動による収入増と学納金の増収効果を見込みつつ、引き続き経費節減を基本に早期の収支均衡回復を図るべく努力してまいります。

なお、決算・予算について詳しくは本学の公式ホームページに掲載しておりますので、本誌では平成30年度決算の概要のみを掲載しています。（ここに掲載した内容は、本学全体の財務状況を分かり易く示したものであり、本学を含めた法人全体の財務の整理の仕方とは若干異なります。）

管理部財務課次長　原田 耕

2018（平成30）年度貸借対照表　（単位：百万円）



流動負債 1,772 → 借入金、新入生学納金等前受金

主なものは長期借入金、退職給与引当金

基本金＋繰越収支差額
基本金は、固定資産対象の1号基本金、建物の改築に備えた2号基本金、奨学金原資の3号基本金、経常経費支出に備えた4号基本金の合計

土地、建物、備品、図書、有価証券等

流動資産 595 → 現預金等

内部部門勘定 2,946 → 建物、備品等の減価償却や退職金等に引当てる特定預金額

貸借対照表とは：
期末時点の資産、負債などの総額を対照表示し、静態的な収支状況を表示したもの（資産、負債などの状況）

2018（平成30）年度事業活動収支計算書

科目	決算額
学生生徒等納付金	2,660
手数料	70
寄付金	59
経常費補助金	275
付随事業収入	298
雑収入等	150
教育活動収入計	3,514
人件費	2,177
教育研究経費	1,324
管理経費	281
教育活動支出計	3,783
教育活動収支差額	－269
教育活動外収支差額	58
経常収支差額	－211
特別収支差額	－32
基本金組入前収支差額	－243
基本金組入額計	－746
当年度収支差額	－990
前年度繰越収支差額	－6,382
翌年度繰越収支差額	－7,372

昨年度より施設設備に係るものは「特別収入」に計上（57百万円）

寄付金と同様、施設設備に係るものは「特別収入」に計上（12百万円）

主に受取利息・配当金等の運用収入及び借入金利息

大部分がキャンパス整備に伴う第1号基本金組入

事業活動収支計算書とは：
当該会計年度内の収支の均衡状態を明らかにするもの
（収入と支出のバランス状況）
（単位：百万円／未満は切り捨て）

2018（平成30）年度資金収支計算書

科目	決算額
学生生徒等納付金収入	2,660
手数料収入	70
寄付金収入	115
補助金収入	287
付随事業収入	298
受取利息・配当金	67
雑収入	150
借入金等収入	1,000
前受金収入	796
その他の収入	1,183
資金収入調整勘定	－978
前年度繰越支払資金	468
収入の部　合計	6,119
人件費支出	2,188
教育研究経費支出	779
管理経費支出	246
借入金等返済支出	300
施設関係支出	1,940
設備関係支出	194
資産運用支出	421
その他の支出	416
資金支出調整勘定	－651
次年度繰越支払資金	285
支出の部　合計	6,119

新入生数増加と学納金改定に伴い前年比172百万円増収

学寮費関係の収入が中心。新学寮供用開始で106百万円増収

新学寮建築資金に係る借入金

キャンパス整備のための減価償却引当預金取崩し等

長期借入金の約定返済分

主にキャンパス整備関係費用

主に減価償却引当等の引当特定資産への繰入支出

資金収支計算書とは：
当該会計年度内の諸活動に関するあらゆる収入、支出の内容を表したもの（資金の出入り状況）（単位：百万円／未満は切り捨て）

開催中

地球規模課題を考える展示スペース「BE＊hive」『ファッション×気候変動』

BE＊hiveでは、「気候変動」をテーマに、2019年4月～2021年3月まで半年毎にサブテーマを変え、多角的にこの地球規模課題にアプローチしています。第一弾は、「ファッション×気候変動」（2019年4月～8月）とし、Tシャツなど、私たちにとって身近なファッションがいかにして気候変動と関わっているのかを展示を通して発信しています。また、9月からの第二弾は「女性と社会的弱者にとっての気候変動」（2019年9月～2020年4月）を予定しています。

BE＊hive 開館時間　平日：10：00～18：00　土：11：00～16：00　休 日・祝日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

4号館

グローバル共生研究所
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures　[SHISF]

公開講座、共生セミナー等のご案内は、研究所WEBサイトよりご覧ください。
https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/

報　告

「気候変動」をテーマに、様々な公開講座も開催しています。在学生・卒業生・保護者様をはじめ、一般の方もご参加いただけます。

4/20　映画上映会『True cost』＋パネルトーク

映画上映後、パタゴニア日本支社長・辻井隆行氏とエシカル協会代表の末吉里花氏による、パネルトークも開催しました。

5/31・7/1　Worn Wear College Tour －パタゴニア

人とモノとの関係を変えようという使命のもと、壊れた洋服を修理するパタゴニア日本支社の「Worn Wear College Tour」が、本学を皮切りにスタートしました。BE＊hive特別企画展では、同社の取り組みを紹介しています。

5/22　環境問題と私たちのライフスタイル

BE＊hive特別企画展開催を記念し、京都大学名誉教授・京エコロジーセンター館長 高月紘先生をお招きし、1年次生対象のジェネラルレクチャーでご講義いただきました。

6/29　ゼロ・ウェイストで目指す未来社会 ～徳島県上勝町の事例から～

ごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）宣言をしている上勝町の取り組みを、坂野晶氏にご講義いただきました。ワークショップでは、「そもそも使わない方法を考える」をテーマに、参加者同士、様々な意見が交わされました。

7/6　気候変動 × マインドフルネス

ダライ・ラマ法王の担当医でもあるバリー・カーズィン氏をお招きし、ご講義、学生とのパネル・ディスカッションを行いました。地球、隣人、自分自身の心と向き合う貴重な時間となりました。

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業（科研費）は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。（独立行政法人日本学術振興会ホームページより）。

以下は、令和元年度の本学専任教員の採択課題（新規＋継続）です。（掲載順は、研究種目・課題番号順）

木戸 功　基盤研究(B)
現代家族の過程と実践をめぐる質的研究に対する組織的取り組み

西原 直枝　基盤研究(B)
温熱環境適応が知的生産性に与える影響

大槻 奈巳　基盤研究(C)
派遣労働のキャリア形成：専門性・職域・年齢制限を軸とした社会学的アプローチ

小柳 智一　基盤研究(C)
副助詞を中心とした日本語文法史の多角的研究

杉本 淳子　基盤研究(C)
日本人英語教員の発音力向上を目的とした発音指導プログラムの構築と効果測定

岸本 健　基盤研究(C)
幼児の指さし産出の促進による言葉の遅れの予防効果

奥切 恵　基盤研究(C)
世界展開と高大接続のためのインターアクティブ・プレゼンテーション教授法の提案

植田 誠治　基盤研究(C)
がん教育を行う際の小児がんの子供に対する配慮についての研究

益川 弘如　基盤研究(C)
児童生徒が創る「授業に埋め込まれた学習評価」の支援システム開発と実践的実証

土田 宏成　基盤研究(C)
近現代日本における首都の災害に関する総合的研究

畑 浩一郎　基盤研究(C)
フランス・ロマン主義文学における共属意識に関する総合的研究

石井 洋子　基盤研究(C)
ケニア人女性の越境と母国開発をめぐる人類学的研究

今川 恭子　基盤研究(C)
乳幼児と養育者の音声相互作用における音楽的ナラティヴの発達研究

永田 佳之　基盤研究(C)
地球規模課題に応答する学習に関する研究 ―気候変動教育に焦点を当てて―

杉原 真晃　基盤研究(C)
サービス・ラーニングを通した教授・学習理論と実質的な教養教育カリキュラムの構築

高橋 雅延　挑戦的研究（萌芽）
記憶方略に及ぼすステレオタイプの影響に関する実験的検討

藤原 勇　若手研究
上司と部下の各信頼と被信頼で構成される TRUST4がもたらす長期的影響の解明

朴 京眞　若手研究(B)
ダンス指導力向上を目指す教員養成課程におけるダンス授業のプログラム改善

林 真樹子　若手研究(B)
Dynamics of Skills Formation through Inclusive Education of Primary School Children without Disabilities in Cambodia

Corbeil Steve　若手研究(B)
The Social and Cultural Impact of Literary Translators in Japan from 1950 to 1970

Event report

災害復興支援チャリティデーを開催しました

6月15日(土)、高祖学長によるご挨拶と学生による復興支援活動報告からチャリティデーが幕をあけました。バザーでは関係各団体からの心のこもった物品が並び、ワークショップが開催されました。展示では災害復興支援にかかわる取り組みが紹介され、ステージでは想いの詰まった発表がなされ、カフェではご来場いただいた方々が憩いの時間を過ごされていました。そして、学生による祈りの時間の後、シスター岡崎による御礼の言葉をもってチャリティデーは幕を閉じました。

このチャリティデーを通して、復興と生きることの喜びとともに、復興の課題や生きることの苦しみもまた、被災された皆様および関係者とともに分かち合わせていただく機会につなげたいと思っております。収益は、東北地方をはじめとする復興支援活動のために使わせていただきます。

ご来場、ご協力くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

2019災害復興支援チャリティデー実行委員会委員長　杉原 真晃

Announcement

第55回 聖心祭

10月19日(土) 20日(日)

本年度の第55回聖心祭は10月19日(土)10時～17時・20日(日)10時～16時に開催いたします。私たち聖心祭実行委員はこの2日間に向け、日々活動しております。

今回のテーマは『翔』にいたしました。

『翔』の意味に「めぐる。振り返る。」とあるように、これまでの伝統を受け継ぎながらも、記念すべき令和1回目、第55回という節目の年だからこそ、私たちらしさを大事に、未来へ向かって翔びたつための礎になれればと思い、このテーマに決定いたしました。

本年度は60団体以上が、展示・公演・物品販売などを行い、学内の団体だけでなく学外の方にもご協力いただく予定です。

学内全体で楽しめて魅力溢れる企画が多種多様にございますので、是非いらしてください。聖心祭実行委員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

第55回聖心祭実行委員会委員長　木下 理子

宮代会だより

同窓会宮代会は、母校とのつながりを大切に、さまざまな活動を行っております。

【宮代会館】

南門を上がった左手にある会館では、福祉活動をはじめ会報の発行、宮代祭の開催等行事の運営に、役員、理事を中心に同窓生が携わっております。地下一階の事務室では、同窓生スタッフが会員の名簿の管理、会館で行われるお稽古、活動のサポートなどをしております。様々なジャンルのお稽古は、学生の皆様も参加いただけます。

【留学生昼食会】

5月23日(木)、大学で学ぶ交換・短期・学部留学生27名と安達副学長をはじめ大学関係者、サポートの学生の方々をお招きし、

お料理と同窓生の手作りのお菓子で親睦交流を行いました。大学グリークラブの皆様にも参加いただき、美しい歌声で校歌を披露してくださいました。

【震災復興支援チャリティデー】

6月15日(土)、大学主催のチャリティデーに参加いたしました。被災された方々のことを忘れず、支援活動に協力してまいりたいと思います。

【奨学金給付】

本年度も「宮代会奨学金」を博士課程前期1年生1名に、「宮代会特別奨学金」を大学4年生3名に給付を決定いたしました。研究に励む学生を支援し母校への貢献を続けてまいります。

学校法人 聖心女子学院 生涯学習センター 2019年度後期講座ご案内

開講予定の講座は、以下のとおりです。
詳しくは学校法人本部のホームページでご確認下さい。

講　座　名	講　　師
日常生活と聖書	シスター 岩井 慶子 (聖心会)
キリスト教への招きV	宮越 俊光 (カトリック中央協議会)
伊勢物語を読む	山口 佳紀 (聖心女子大学名誉教授)
めざせ読書の達人	大塚 美保 (聖心女子大学教授)
浮世の物語 ー西鶴の『西鶴諸国話』を読むー	深澤 了子 (聖心女子大学教授)
古代日本人の名前	佐々木 恵介 (聖心女子大学教授)
辞書のはなし	山田 進 (聖心女子大学名誉教授)
大人のための算数教室ー子どもの疑問やつまずきを探って、算数の面白さを味わうー	塚田 亮 (元渋谷区立臨川小学校校長)
日本の歴史主義を支えた建築家たち	大川 三雄 (日本大学特任教授)
上野今昔物語	浦井 正明 (寛永寺長臈)
日本の三大茶人 “利休・織部・遠州” ーお茶の世界を深く知るためにー	植木 宗麗 (裏千家教授)
御即位記念特別展「正倉院の世界ー皇室がまもり伝えた美ー」を鑑賞する	猪熊 兼樹(東京国立博物館 学芸企画部企画課 特別展室長)
日本書紀成立1300年 特別展 「出雲と大和」を鑑賞する	品川 欣也(東京国立博物館 学芸研究部調査研究課 考古室長)

聖マグダレナ・ソフィア聖堂（大学聖堂）献堂60周年

聖心女子大学の聖堂（聖心会渋谷修道院聖堂）は、1号館、マリアンホールなどの建造物とともに、建築家竹腰健造の設計によって建設され、1959年（昭和34年）1月24日に献堂式が行われました。聖堂は、聖心会の創設者「聖マグダレナ・ソフィア・バラ」に捧げられており、そこから正式名称を「聖マグダレナ・ソフィア聖堂」と言います。

この聖堂は、大学の聖堂・礼拝堂としては、例外的な大きさを持ち、最大で700 名を収容できます。今でも、新入生の「始業ミサ」や「新年の集い」、卒業式の後の「感謝の祈り」などで用いられています。このように1学年が一堂に会することのできる大学聖堂は、他にはほとんどありません。他にも、キリスト教学の授業やコンサートなどにも用いられています。

献堂時の聖堂は、いまとは違って、祭壇の背景が、正面に金色のモザイクの前に「み心のイエス」（姉妹校では「我に来たれ」と呼ばれている像）が立つものでした。

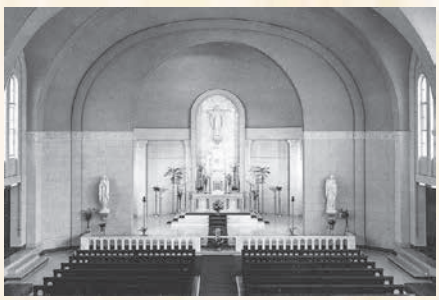
その後、1965年（昭和40年）に、現在のモザイク画に変更されました。これは、イエス・キリストの死と復活を示す白い十字架と、キリストの生涯に寄り添い、その受難の苦しみも共にした聖母マリアの悲しみを示す七つの涙がちりばめられたものです。また、聖堂の祭壇やその周辺には、天然の大理石が用いられ、これも戦後の建造物としては貴重な事例とされています。

この聖堂では、60年もの間、多くの学生、教職員、シスター方、さらには卒業生などが集い、ミサや祈りを捧げてきました。

時代とともに学生生活における宗教行事の位置づけも変わり、それとともに聖堂の役割も変化しました。それでも「お御堂」（おみどう）は、このキャンパスの中心にあって、学生生活の重要な節目においてだけではなく、その精神的な中心でもあることに変わりはありません。また、聖堂は誰に対しても、開かれた場所であり、心を落ち着かせたり、心静かに自分と向き合ったり、神様に祈りを捧げる場として、学生や教職員が訪れています。

本年は献堂60周年に当たり、5月23日（木）には特別に新学長髙祖敏明神父様の司式のもと、聖堂の守護聖人聖マグダレナ・ソフィアの祝日の学生ミサが行われました。

加藤 和哉（キリスト教文化研究所所長・哲学科教授）



建設当時の聖堂

現在の聖堂

発行　聖心女子大学　〒150-8938　東京都渋谷区広尾4-3-1　TEL 03-3407-5811（代表）　編集　聖心女子大学　広報・社会連携部 広報課
発行　年4回（3・6・7・11月）
無断転載・複製を禁じます